

第28回 日本木材学会地域学術振興賞（2019年度）
「北海道における木材の安全安心な利用と高付加価値利用への貢献」
秋津裕志（道総研林産試験場）

この度は、日本木材学会地域学術振興賞という名誉ある賞を頂き大変光栄に存じます。

ご推薦またはご選考に当たられた先生方には深く感謝申し上げます。これまで、研究や製品開発にご指導、ご協力いただいた諸先生方、森林総合研究所、道総研林業試験場の研究員の皆様、行政機関の皆様、業界団体、企業の皆様、職場の方々に心より感謝するとともに、厚くお礼申し上げます。

平成5年に北海道立林産試験場に採用され、合板・木質ボード、接着、塗装や居住性など幅広い分野で、木材・木質材料による安全な製品、快適な環境の構築により、地域産業に貢献できる研究に取り組んできました。これまでの研究内容を紹介させて頂くことで、皆様へのお礼に代えさせて頂きます。林産試験場技術部合板科に配属され、合板の研究を進めるなかで、シックハウスという大きな社会問題が生まれました。建築基準法の改正に伴い、材料に厳しい基準が設けられ、種々の材料や製品の測定を行いました。また、大学、森林総合研究所、道立衛生研究所、道総研北方建築総合研究所、行政機関や業界団体などと幅広い分野の横断的な連携のもとでシックハウス問題に対応してきました。学校においては、定期検査で室内濃度指針値を超過した教室は使用不可となり、早急な対応が求められました。現在においても教育委員会と協力し、定期検査を実施しています。また、札幌地方裁判所からシックハウス担当の専門委員を委嘱され、司法の場においても専門的な立場からのアドバイスを行っています。

シックハウス問題においては、木材や木質材料が問題とされる場合があることから、木材・木質材料で快適な居住環境を提供できないかを検討するため、産業技術総合研究所の地域産業活性化支援事業により、外来研究員として招聘して頂き、旭川地域の主要産業である家具業界の活性化のための研究に取り組みました。その研究をきっかけとして、家具材料にカンバ材を用いて家具を試作しました。海外においては、違法伐採によって楽器メーカーに罰金が科せられる事態もあり、優良広葉樹を安心して使えない、利用できない状況でした。地域産業の活性化のため地域材の使用が有効であると判断し、資源量が豊富で更新が良好ですが、パルプなどの低次利用がほとんどであったシラカンバとダケカンバに着目し、建材や家具として十分な性能を有することを明らかにしました。さらに高価値用途においては、京都大学の村田功二先生の指導のもと共同で、ギターや硬式野球用バットを開発しました。ギターはボディがシラカンバ、ネックと指板がダケカンバのエレキギターで、第68回大会（京都）のウッドサイエンスミキサーで九州大学の巽大輔先生に弾いて頂きました。ダケカンババットは、北海道日本ハムファイターズの田中賢介元選手に評価してもらい、引退までの9試合に使用してもらいました。これによってダケカンバという名称が北海道内では、一般紙だけでなくスポーツ紙にも掲載され、シラカンバと比較し知名度の低かったダケカンバも少しは知られるようになりました。そして、シラカンバやダケカンバを一般に普及し、持続可能な広葉樹資源として利用してもらうため、白樺プロジェクト（令和2年3月から一般社団法人 代表：鳥羽山聡氏）という、大学、研究者、林業家、家具職人、建築家、建材メーカー、デザイナーなどが集まった団体において、樹木

の更新から製品設計，製作，営業まで行っています。

今後とも北海道の森林資源の持続性のための技術開発と地域産業に貢献していきたいと考えています。 ご鞭撻を心からお願い申し上げます。